

■ 2－6 聖園女学院高等・中学校

(1)学校としての戦略

神奈川県から首都圏の私立学校に入学する受験生の数が増え、また大学受験を念頭において大学附属の中高一貫校を選ぶ傾向がある中で、シスター不在のカトリック女子校となった聖園女学院の良さを幅広くアピールし、受験生と保護者にとって魅力ある学校作りを行うことは、定員割れが続いている本校にとって真剣に受け止める課題となっています。南山学園の設置校として、聖園の伝統を尊重しながら現代社会に貢献し、地域社会に認められる女子教育のあり方を検討し、順次実施していくことを目指します。具体的には進学実績の向上のため、①高2、高3生の進路指導充実、②専任・非常勤講師の協力体制による中学生の放課後学習支援の充実、③ICT教育の活用を中心とした教科教育法の見直しを必須とします。快適な環境を確保するため、施設環境整備としては①トイレの改修、②カフェテリア開設、③冷暖房設備の改善を計画しています。広報活動は、受験生、保護者のニーズを調査し、対象に好まれる広報媒体と内容を精査し、受験生の居住地の拡大に努めます。

(2)教育・研究

1. 国際教育

- ・すでに聖園女学院から留学生を派遣しているニュージーランドのカトリック女子校との相互交流を進め、ニュージーランドでも注目される学校を目指します。
- ・学校主催の海外研修を利用し、すでに学年のおよそ6割の生徒が留学を経験しています。今後は外部留学機関の活用も合わせ、卒業までに8割以上の生徒が留学できるような企画を紹介していきます。
- ・外部の留学機関の活用を促進し、留学体験者の数を増やします。
- ・国際教育の一環として日本文化を学び、伝えます。

2. 教科教育

- ・各教科の特性に応じ、アクティブラーニング等、適切な教育法を研究します。
- ・ICT機器の効果的な活用を促進します。

3. 学習支援

- ・iPadを用いた自主学習を推し進め、利用状況の進捗をチェックし、教科指導に活かします。
- ・学習および進路指導の機会を増やすために、外部講師を使って、放課後、土曜日に自主的に学習する環境を整備します。
- ・福祉、医療系に進路を希望する生徒たちに受験準備の機会を提供します。そのためにSTEAM教育を定着させます。

4. 教科横断的教育

- ・教科・分掌を超え、総合的な学習（中学）・総合的な探求（高校）を、テーマに基づき各学年で実施します。その一環として、聖園女学院の自然環境を活かした教科横断型の教育も研究します。
- ・京都・長崎の現地研修を宗教・歴史・平和教育を含む総合学習として位置づけます。
- ・プログラミング学習とSTEAM教育にも取り組みます。

5. 宗教教育

- ・宗教を横断的教育の柱として位置づけ、STEAM教育、SDGsを推進する目的を明確にします。
- ・京都、長崎の現地研修を他宗教、歴史、平和教育として位置づけます。
- ・宗教音楽を学校行事の中で確立させます。

- ・保護者を対象とする聖書研究会の現状を検証し、利用者の必要に応える形で継続します。

6. 読解力教育

- ・日本語、英語での自発的な読書を通じて語彙を豊かにし、自分および他者への理解を深めます。

7. 他校との交流

- ・男子カトリック校も含めた、他のカトリック校との課外活動、海外研修を通して交流する場を増やします。
- ・南山学園各設置校との国内外の企画に参加できる仕組みを作ります。

(3)施設・設備

- ・聖園女学院の魅力を伝えるように校舎の整備を進めます。(正門・通用門・講堂前広場・トイレ・カフェテリア・冷暖房等)
- ・ICT 教育実践を支える環境として、電子黒板機能付きプロジェクターを各教室へ設置し活用します。
- ・iPad の利便性を高めるための業者選択を継続します。
- ・土砂災害、水害などの防災対策に取り組みます。

(4)社会貢献

- ・赤い羽根共同募金、あしなが募金等の募金活動の継続をします。
- ・生徒による聖園子供の家、小さき花の園でのボランティア活動を継続します。
- ・保護者参加のボランティアについては、聖園後援会の主導のもと、聖園子供の家との連携を図っていきます。
- ・生徒のボランティア活動の範囲を広めるために、市内の社会福祉団体との協力体制を敷きます。特に藤沢育成会の作業場でのリサイクルによる作品(たわし、廃油石鹸等)を、SDGs と関連づけ、より良い製品となる工夫、地域での普及に努めます。これらの活動を継続し、地域から選ばれる学校のイメージを定着させます。
- ・10年以上前から続けている藤沢市の姉妹都市との国際交流の継続と共に、藤沢市の国際都市としての発展に、生徒たちが英語力を生かして貢献できるよう藤沢市と協力します。
- ・聖園女学院の豊かな自然環境を、地域の文化活動に役立たせます。
- ・災害時の避難所として、必要に応じて施設を提供します。

(5)財政計画

- ・教育職員の枠を検討し、人件費削減を目指します。
- ・教育環境整備を目的とした寄附金を募集します。
- ・学納金を定期的に見直します。
- ・社会貢献を活かし、地域から選ばれる学校のイメージを定着させます。
- ・生徒募集につながるような進路指導を、学校を挙げて実施する協力体制を強化します。そのため6年間の教育課程を全面的に見直します。その結果を効果的な広報活動を通し、広く伝えていきます。広報活動の方法は毎年検証し、改善策を検討します。

(6)組織運営と人材育成

- ・分掌の仕事内容を見直し、より合理的な編成に改善します。
- ・学校の仕事全体をより良く理解するために、定期的な分掌のローテーションを計ります。
- ・働き方改革の一環として、教育職員の健康維持のために、勤務時間を客観的に管理します。

- ・神奈川県、および他の団体が主催する研修への積極的参加とその報告を共有します。
- ・部活動指導員を始めとする、課外活動、休日活動での外部指導者活用を検討します。
- ・ハラスメント・職業倫理について毎年研修をおこないます。